

研究所だより

第316号
2012年1月6日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015



<迎春・2012年>

謹んで新年のご祝辞を
申し上げます。

本年も宜しく
お願い致します。

新年を迎え、子どもも教師も夢を持ち、希望に燃え、やる気に満ちあふれているのではないのでしょうか。そんな夢と希望を現実的なものにしていくために、教師として職場としてやる気を育てていく手立ての参考になれば・・・

<小学校でやる気を育てる>

1, 小学校における教師の影響力

小学校では、学級担任が殆どの教科の授業を担当し、担任とその子ども達は一日の大半の時間を一緒に過ごします。担任が子ども達をどのように受け止め、子ども達の気持ちを大切にされた言葉かけが出来ているかで、子ども達のやる気は大きく左右されます。担任が一人ひとりの子どもの良さを見つけ、個に応じた賞賛の言葉かけや、厳しくても暖かさのある指導が出来れば、その子ども達は自分に自信を持ち、やる気をもって学校生活を送ることが出来ます。

小学校時代の担任の一言が、その後の人生を大きく左右したという話を聞くことがあります。多感で吸収力のある小学校時代に、努力したことをタイムリーに誉められると、やる気に火がつき、更に自分を高めていくことが出来ます。是非とも子どものやる気に火をつけることの出来る教師になりたいものです。

2, やる気を育てる授業実践

授業内容がよく理解でき、授業の中で自分が活躍できる場があれば、自然と学習に対するやる気が生まれてきます。更に、子ども達が授業を楽しんでいるのは、その教科の考える喜びや、見方・考え方のよさが実感できるからです。小学校において、このような授業をどの教科においても常時展開していくことは難しいことですが、子ども達のやる気を喚起させるためにも、是非とも取り組まなければならない課題だと思います。

3, やる気を育てる家庭へのはたらきかけ

子どもの健全な育成を図るためには、学校、家庭及び地域の連携協力が大切であることは言うまでもありません。子どものやる気を育てるのも学校教育だけでは不十分であり、家庭や地域にもその役割を果たしてもらう必要があります。学校での指導方針は、学校便りや学級通信等で家庭や地域に発信

し、理解と協力を求めていかなければなりません。

家庭の中で、家族に頼りにされ感謝されているという存在感を持つことが出来れば、子どもの気持ちは安定し、自然とやる気に結びつくものです。家庭で子どもに「ありがとう」という感謝の言葉掛けをすることがいかに重要であるか保護者に伝え、家庭と学校が連携してやる気を育てていきたいものです。

4, 教師のやる気

子ども達のやる気を育てるためには、その子どもに関わる教師のやる気が絶対条件です。教師は、「このような子どもに育てたい。」という明確な目標を持ち、それに向かって色々な手立てを考え、日々実践していく必要があります。そこに教師としての熱い思いや使命感がなければ、やる気のある子どもは育ちません。子どものやる気を育てられる教師として、次のようなことを大切にしたいです。

①. 子どもの成長を喜べること

教師にとっての一番の喜びは、子どもの成長を実感出来ることです。出来なかった漢字の書き取りや算数ドリルが出来ようになったこと、落ち着きのなかった子がじっくりと取り組めるようになったこと、運動会での演技が段々と感動的なものに仕上がったこと等、子どもが指導によって変わったなど実感できることです。

このような思いが、教師としての次のやる気への大きな原動力に繋がるものです。子どもの成長を心の糧にして、子どものために頑張れる教師でありたいものです。

②. 存在感のある職場環境づくり

教師も子ども同様で、自分が周囲に認められ、頼りにされる存在で、誰からも高く評価されれば、意欲的に仕事をする事が出来ます。同じ学校の教師の中にも、色々な個性があり、得手不得手があります。その違いを相互に認め合い、補い合って一つの学校が成り立っているという意識が持てれば、仕事に対するやる気が大いにわいてくるはずですが。

職場環境づくりは管理職によるところが大きいですが、教師一人ひとりの自覚とやる気で、居心地のよい環境をつくることです。その環境こそが教師のやる気の原点です。

子どものやる気は、それに関わる周囲のおとな次第です。学校では、子どもに関わる担任をはじめ全ての教職員が、一人ひとりの子どもの良さを認め賞賛する応援団になることです。また、家庭でも、子どもを認め、誉めて育てられるよう、保護者に働きかけていくことが教師の役割だと考えます。学校、家庭、地域が一体となって、やる気のある元気な子どもを育てていきたいものです。

<雑記・辰年生まれ性格>—辰年生まれ性格から抜粋・インターネット

干支の中で唯一の架空の生き物であり神の使いとしてあがめられている十二支。辰年の性格と言えば闘争心が強い星として知られています。非常に強い競争心を持っており、どこまでも戦い続けようとし、義侠心があるため、目下の面倒をよく見るタイプです。その結果、目下の人に頼られる傾向にあります。